

2026年2月15日 ガラテヤ3：15－29

説教題 「キリストに連れて行く養育掛」

【今日の説教から】

「わたしたちは生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではない」と語られたように、神の民イスラエル・ユダヤ人の誇りは絶大でした。しかしパウロは、神様は「アブラハムに、『あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう』との良い知らせを、予告した」と語ります。

イエス様はサマリヤの女性に言われました。「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

ヨナ書に「ましてわたしは十二万あまりの、右左をわきまえない人々と、あまたの家畜とがいるこの大きな町ニネベを、惜しまないでいられようか」とあるように、ユダヤ人だけが救いに関してすべてであると語っておられるのではありません。すべての人は罪人であり、律法を成し遂げることが出来ず、ただ主の十字架のあがないによって義とされ、感謝をもってイエス様の御名により神様に呼ばれるのです。

皆様おはようございます。

先週の日曜日はこの時間、1時間2時間の間にもみるみる積雪がありましてびっくりいたしました。その後寒さも一段落しましたが、お元気にお過ごしでしたか。

今日は聖書の箇所の変更しまして3章の終わりまで一気に進みたいと思います。

先週の箇所にはこのようにありました。

3:4 あれほどの大きな経験をしたことは、むだであったのか。まさか、むだではあるまい。

3:5 すると、あなたがたに御霊を賜い、力あるわざをあなたがたの間でなされたのは、律法を行ったからか、それとも、聞いて信じたからか。

3:6 このように、アブラハムは「神を信じた。それによって、彼は義と認められた」のである。

3:7 だから、信仰による者こそアブラハムの子であることを、知るべきである。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを、あらかじめ知って、アブラハムに、「あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう」との良い知らせを、予告し

たのである。

3:9 このように、信仰による者は、信仰の人アブラハムと共に、祝福を受けるのである。

3:10 いったい、律法の行いによる者は、皆のろいの下にある。「律法の書に書いてあるいっさいのことを守らず、これを行わない者は、皆のろわれる」と書いてあるからである。

3:11 そこで、律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもないことが、明らかである。なぜなら、「信仰による義人は生きる」からである。

3:12 律法は信仰に基いているものではない。かえって、「律法を行う者は律法によって生きる」のである。

3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。

3:14 それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。

「あれほどの大きな経験をしたこと」というのは、「キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった」ということに他なりません。

そのような大きな経験をしたにもかかわらず、人は律法の行いによって正しいとされるのならばイエス様は十字架につく必要はなかったのに、恵みによって、身代わりの死を遂げてくださったのに、また律法による救いを持ち出すのならばどうしたことか、律法によって救われないのであれば、わざわざ異邦人に割礼を改めて要求することはないではないか、律法によらなければ異邦人は永遠に受け入れられないというが、アブラハムに与えられた異邦人への「あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう」との良い知らせを予告された神様の業に目を留め、モーセがシナイ山で律法を得るよりも430年前にアブラハムに神様が約束なさった異邦人への祝福は、律法が与えられる前にすでに決定的であったことに目を留めよというのが今日のパウロのメッセージです。

3:15 兄弟たちよ。世のならわしを例にとって言おう。人間の遺言でさえ、いったん作成されたら、これを無効にしたり、これに付け加えたりすることは、だれにもできない。

3:16 さて、約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである。それは、多数をさして「子孫たちとに」と言わずに、ひとりをさして「あなたの子孫とに」と言っている。これは、キリストのことである。

3:17 わたしの言う意味は、こうである。神によってあらかじめ立てられた契約が、四百三十年の後にできた律法によって破棄されて、その約束がむなしくなるようなことはない。

3:18 もし相続が、律法に基いてなされるとすれば、もはや約束に基いたものではない。ところが事実、神は約束によって、相続の恵みをアブラハムに賜ったのである。

この御言葉を理解するには創世記12章のアブラハム契約に目を留めたいと思います。

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように。

12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。」

12:4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。

12:5 アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入った。

12:6 アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの榿の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。

12:7 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。

12:8 アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。

12:7 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」

パウロはこの箇所を引いているようです。「あなたの子孫たちにこの土地を与える」ではなくて、「あなたの子孫にこの土地を与える」と一人の人を指しており、それがイエス・キリストであるということです。

アブラハムの後に神様にモーセへの律法の伝授を行われましたが、それよりも先にアブラハムに対する祝福と救いの約束は無効になることはない、従ってアブラハムに、「あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう」との良い知らせを予告したことも無効ではなく、イエス・キリストこそがアブラハムに約束された約束を受け継ぐということも真実であることをパウロは語りました。

3:17 わたしの言う意味は、こうである。神によってあらかじめ立てられた契約が、四百三十年の後にできた律法によって破棄されて、その約束がむなしくなるようなことはない。

3:18 もし相続が、律法に基いてなされるとすれば、もはや約束に基いたものではない。ところが事実、神は約束によって、相続の恵みをアブラハムに賜ったのである。

神の祝福の約束は、律法による民に相続されたのではなくて、アブラハムと、その子孫であるイエス・キリストに相続される者であって、律法の成就によって得られるものではないとパウロは語ります。相続の約束をしたときには律法は存在せず、従って相続の恵みは律法によってもたらされるものではないとパウロは語ります。

3:19 それでは、律法はなんであるか。それは違反を促すため、あとから加えられたのであって、約束されていた子孫が来るまで存続するだけのものであり、かつ、天使たちをとおし、仲介者の手によって制定されたものにすぎない。

3:20 仲介者なるものは、一方だけに属する者ではない。しかし、神はひとりである。

3:21 では、律法は神の約束と相いれないものか。断じてそうではない。もし人を生かす力のある律法が与えられていたとすれば、義はたしかに律法によって実現されたであろう。

3:22 しかし、約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めたのである。

律法を持っている民は律法を知りながらその律法を守り行うことが出来なかったという責任を負っているのです。確かに守っていると彼らが言ったところで、それは正しくありません。アブラハムの約束の後にユダヤ人にもたらされた約束は、その約束は律法を守ることによってもたらされるのではなくて、イエス・キリストによってもたらされるということを指し示すのです。

「律法はなんであるか。それは違反を促すため、あとから加えられたのであって、約束されていた子孫(イエス・キリスト)が来るまで存続するだけのもの」

「もし人を生かす力のある律法が与えられていたとすれば、義はたしかに律法によって実現されたであろう」

「しかし、約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めた」

3:23 しかし、信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視されており、やがて啓示される信仰の時まで閉じ込められていた。

3:24 このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである。

3:25 しかし、いったん信仰が現れた以上、わたしたちは、もはや養育掛のもとにはいない。

3:26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。

信仰が現れるまでは、私たちは古い契約(旧約)の中にありました。そこは律法の世界であり、私たちの正しい行いによってのみ救いにあずかるという律法の世界です。

私たちは律法の監視下に置かれており、律法にそぐわないものであるという宣告を常に受け続けていました。

しかしそこに啓示される信仰の 때가到来しました。

それは律法の前、アブラハムにすでに語られていた神様の救いと祝福の約束でした。

律法は養育係として私たちを厳しく導き続けましたが、新しい(古くからアブラハムに約束されていた)約束の契約(新約)が現れた時、古き者は過ぎ去って、全てが新しくされました。

2 コリント 5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

1 コリント 11:23 わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、

11:24 感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

11:25 また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

11:26 だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

3:26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。

3:27 キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。

3:28 もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。

3:29 もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。

付. 恵みの言葉

ローマ 3:9 では、どうなのか。わたしたちには優れた点があるのでしょうか。全くありません。既に指摘したように、ユダヤ人もギリシヤ人も皆、罪の下にあるのです。

3:10 次のように書いてあるとおりです。「正しい者はいない。一人もいない。

3:11 悟る者もなく、／神を探し求める者もない。

3:12 皆迷い、だれもかれも役に立たない者となった。善を行う者はいない。ただの一人もいない。

3:13 彼らののどは開いた墓のようであり、／彼らは舌で人を欺き、／その唇には蝮の毒がある。

3:14 口は、呪いと苦味で満ち、

3:15 足は血を流すのに速く、

3:16 その道には破壊と悲惨がある。

3:17 彼らは平和の道を知らない。

3:18 彼らの目には神への恐れがない。」

3:19 さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。

3:20 なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

ローマ 8:1 従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

8:2 キリスト・イエスによって命をもたらず霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

8:3 肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。

ガラテヤ 3:10 いったい、律法の行いによる者は、皆のろいの下にある。「律法の書に書いてあるいっさいのことを守らず、これを行わない者は、皆のろわれる」と書いてあるからである。

3:11 そこで、律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもないことが、明らかである。なぜなら、「信仰による義人は生きる」からである。

3:12 律法は信仰に基いているものではない。かえって、「律法を行う者は律法によって生きる」のである。

3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてく

ださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。

2:10 あなたがたは、／「かつては神の民ではなかったが、／今は神の民であり、／憐れみを受けなかったが、／今は憐れみを受けている」のです。

3:23 しかし、信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視されており、やがて啓示される信仰の時まで閉じ込められていた。

3:24 このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである。

3:25 しかし、いったん信仰が現れた以上、わたしたちは、もはや養育掛のもとにはいない。

3:26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。

3:27 キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。

3:28 もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。

3:29 もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださった…つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断された」（ローマ 8：3）という、神様の恵みにただただ感謝いたします。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン